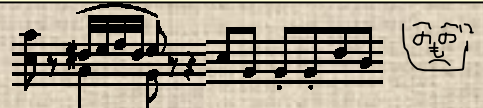


第九たいむず



No.35 2009. 2.5

通刊826担当 M

● 洋子先生は一生に一度の贅沢旅行と言っていたが・・・

ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0046 高崎市江木町483 TEL/FAX: 027-323-0233 (団長渡辺) 携帯電話: 090-1828-8052 (事務局長小野里)

♪オペラ「雪娘」CD

オペラ「雪娘」から今回の演奏曲を抜粋し、また「太陽祭」のパート別の練習用のCDを大里さんが作成してくださいました。是非、お買い求めください。1枚200円

♪「雪娘」あらすじ 第四幕(完)

(http://homepage3.nifty.com/classic-air/database/korsakov/snegurochka_syp.html より拝借)

太陽神ヤリロの谷

雪娘は母親に向って、自分の嘆きを聞いてくれるように訴える。春の精は湖の中から現れて優しげにどうしたのかと問う。雪娘は恋とは何かを問う、すると春の精は娘に花冠を与え、ここに愛の泉の秘密が全てあるのでこれを被れば恋を知ることが出来るといって、花冠を被せてやる。花の精達が春の精の歌にあわせて合唱すると雪娘は春に目覚めて、夜明けを喜ぶ。しかし、春の精は太陽には注意して常に身を隠すのですよと言って湖に消える。

春の精が去ったあとにミスギールが現れて、一晩上、雪娘を探した事を告げる。この言葉に雪娘は心を許し、彼の腕に抱かれる。雪娘はミスギールに太陽から私を隠して、貴方の家に連れて行って欲しいと言うが、ミスギールはそれには耳を貸さず、皇帝に自分達の愛を報告しようと言う。雪娘は仕方なく木陰に身を隠す。太陽が昇り始め、皆が集まり皇帝も花嫁、花婿たちと共に現れて太陽に祈りを捧げる。ミスギールは皇帝の前に進み出て、私は雪娘の心を得ましたと報告する。雪娘も皇帝に対して、自分もミスギールを愛する事を誓う。その時、太陽の光が雪娘の心に当たる、すると雪娘は溶けて無くなってしまふ。ミスギールはこの様子に驚き、神と妖精を罵り、絶望の余り湖に身を投げてしまふ。

皆が驚く中、皇帝はこれがミスギールと雪娘の悲劇ではなく、15年前の春の精が雪娘を産んだことに対する神の怒りなのだと説明し、彼らの犠牲によって、これからは暖かな春と燃えるような夏が来ると言う。すると山の上にヤリロ神が現れるので、皆は神を讃えて幕となる。

♪コンサート情報・行事情報

来週の水曜日です。

☆合唱団葡萄 第7回演奏会 ←チケットはテノール太田まで

2009年2月11日(水・祝) 前橋市文化会館 小ホール 13:30開場、14:00開演 全席自由1000円

指揮: 八木淳一 →イギリスの音楽(ルネッサンス期の宗教音楽、マドリガル、民謡他)

片山みゆき→近代日本名歌抄(委嘱初演、編曲: 信長貴富、ゴンドラの唄・カチューシャの唄他)他

☆翼然音楽(Wing music)サロン・コンサート第一のタベ「すばらしい瞬間を覚えている」(シリーズ4回)

2009年2月13日(金) WING(前橋I. C トイザラス近く) 18:00開場 18:30開演 入場料3500円

出演: 福島明也(バリトン) ユリヤ・レヴ(ピアノ) レオニード・グリチン(チェロ)

グリンカ、シューベルト、ロッシニ、メンデルスゾーンの曲を演奏 4回通し券12000円 チケットはユリヤまで (翼然(よくぜん)・・・鳥が両翼を張ったように、左右にひろがっているさま。)

☆オペラの幻影～歌劇の大作曲家による室内楽のタベ～ ←チケットはユリヤまで

2009年3月11日(水) 前橋テルサ 18:30開場 19:00開演 全席自由 一般1500円 学生800円

出演: ユリヤ・レヴ、レオニード・グリチン他群響首席奏者

☆「歌声喫茶をもう一度」 ←詳細は赤羽先生へ

2009年4月5日(日) コートカフェ(高崎市役所21階) 18:00開始 3800円(お食事+ワンドリンク付)

♪たいむずでは原稿を募集しています！

旅行記、自作の俳句・川柳、お店の宣伝、開花情報などお寄せください。

♪余白にちょっと 先日、藤岡の桜山公園に蠟梅(ロウバイ)を見に行ってきました。斜面一面が黄色でいい香りでした。M

♪余白にちょっと2 先日、日本テレビでスロベニアが出ていました。ブレッド湖の手漕ぎボート(立派!)も、聖マリア教会の幸せの鐘も、リュブリャナ市内も出ていました。過去のプラハ・ニュルンベルクも出ていて第九用の番組のようでした。明

年末年始休み、恒例のヨーロッパ旅行に行ってきました。私はテーマを持って旅行するようにしています。今までもベニスの仮面カーニバル、ドイツのクリスマス市、ヨーロッパの一番先端ロカ岬等行きましたが、今回は一生に一度行きたいと思っていたウィーンフィルのニューイヤーコンサートを聞くのが目的でした。

最初ベルリンに行きそこからバスでバッハの故郷ライプツヒに行きました。バッハがマタイ受難曲を作曲し、その教会で指揮者、オルガニスト、作曲家、少年聖歌隊の指揮等大活躍し、その教会の中に埋葬されている聖トマス教会に行きました。旧市街の中心にありどこからでも見える尖塔がそびえたった古い教会です。その教会からバスで15分くらいのところにシラーが「歓喜の歌」の詩を書いた家がありました。昨年私はシラーの生家に行きましたが、今年はそこから逃亡して行った先のライプツヒに行けたわけです。その、こぢんまりとした家から、世界に羽ばたいた「歓喜の歌」が生まれたとは一寸想像出来ないような静けさでした。夜にはゲヴァントハウスフィルハーモニーで「第九」演奏会を聞きました。迫力は有りませんでした、柔らかな美しい第九を聴き、この直ぐ近くでシラーが詩を書いたと思うとなんともいえない親しみを覚えました。楽譜は高崎第九と同じベーレンライター版を使っていて良い気分でした。合唱団のブラウスが赤、スカートは黒なのが印象的でした。

次の日はベルリンでベルリンフィルのジルベスタコンサートに行きました。(大晦日コンサートの意味)観客が満席の時に最高の響がするようにとカラヤンが作ったと言われているカラヤンサーカス。満員の観客が演奏を心待ちにしています。ベルリンフィルの演奏会場はオケを囲んで周り全部に席があります。私は弦バスの後ろ一番前でした。素晴らしくステージに近くて目の前でサイモンラトルの息使いまで伝わって来て感動ものでした。ベルリンフィルなのに何故かアメリカのガーシュイン作曲「ポギーとベス」が演奏されました。余りアメリカが好きでないドイツっ子もびっくりだった事でしょう。先日帝国オーケストラという映画を見ましたが、ベルリンフィルの戦災で焼けてしまったホールやベルリンの町が映画と現在とが交錯して感慨深いものがありました。

次にはベルリンからウィーンに飛んでウィーンフィルの演奏会に行きました。年末年始恒例のこのコンサートは12月30日、31日、1月1日の都合3回ウィーンを中心に近い楽友協会で演奏されます。世界中、元旦に放映されるのは1月1日午前11時の3回目の演奏会です。この演奏会はマチネなので観客の服装は日本人の和服が目立つ位でウィーン子は華やかなスーツくらいです。12月31日、夜8時の演奏会は華やかなドレス姿が多く見られます。華やかな会場に胸躍らせて入りました。天井の絵の美しさに圧倒され、何より毎年イタリアから贈られるという甘い香りの花々に囲まれ、自然と気持ちが華やいできます。ウィーンの演奏会場は椅子が取り外し可能で、舞踏会用にフロアーが平らで日本の階段式が多いホールに慣れている私たち日本人は背も低いし人の間から顔を出さないと見えにくいものがあります。指揮者のバレンボイムは膝を折って膝で拍子を取っているのがなんともいえない愛嬌がありました。今年はハイドン没後300年で、ハイドンイヤーと言うテーマでした。なんともいえないウィーンフィルの柔らかな音に魅せられ一生に一度と思っていましたのに毎年行きたい誘惑にかられそうです。ちなみに来年の指揮者は昨年フランス人プレートルさんが戻ってくるそうです。ウィーンフィルの演奏会は定期会員制で一般のチケットは取りにくいらしいのですが、そこに世界中からファンが集まるのでチケットは値上がりする一方で中々手が出しにくくなっています。楽友協会は700席しかありません。今年のチケットは680ユーロ。それが日本人の手に入るには数倍に膨れ上がるわけです。

翌日はウィーンコンサートホールでのウィーン交響楽団第九演奏会を聞きに行きました。なんとも贅沢で皆さんに申し訳ないようです。この会場も舞踏会用で平らなフロアーでした。私が今まで聞いた第九の中で一番素晴らしく気に入った演奏で、改めて第九が好きになりました。メロディーパート以外のそれぞれの楽器がすっきり話をしていて動きがハッキリしているのに煩くなくて感激しました。合唱は黒ブラウス黒スカートでアルトが迫力あって素晴らしかったです。4楽章の最初に第九のテーマが暗闇から出るところは今まで聞いた事の無い程のPPで、引き込まれました。聞いている私たちも思わず息を止めてしまうような圧倒感がありました。ここでもベーレンライター版を使っていました。面白かったのはソリストが4楽章のバリエーション(変奏曲)の部分になったらパイプオルガンの後ろからそっと音もなく現れたのに驚きました。

4回の演奏会。旅の締めくくりはウィーン共同墓地でベートーヴェンのお墓に花を捧げて来た事です。憧れのウィーンフィル、ゲヴァントハウスとウィーン交響楽団の2回の第九、ベルリンフィルのジルベスタコンサート。心の底からリフレッシュして元気を貰って帰国しました。高崎第九では是非皆さんに一つ一つのドイツ語単語を覚えて歌って、心から意味を理解して歌って頂きたいと改めて感じて来ました。今年もメイコンサート、スロベニア公演、第36回演奏会と向き合える気力を養えた旅でした。